

公式用具委員会 設置について

全日本インラインスキー連盟は、インラインスケートを使用したスキーのための夏のトレーニングツールの1つとして「インラインスキー」という名称で親しまれているスポーツの発展と普及を目指してきました。

設立当初は、インラインスケートを安全に楽しむための指導者数の確保や、安全思想の普及、安全教育機構の整備、滑走施設の確定、更には、インラインスケートに必要な用具についての知識や使用方法など、インラインスケートを使用したスポーツを安全に広めていけるような活動を行ってきました。また、インラインスキー指導者の育成及び資格認定、インラインスキー指導者による安全思想の普及教育のための講習会、安全確保・技術・指導に関する調査や研究、なども積極的に取り組んできました。しかし、これらを具体的に素早く行動に移すことができたのは、パートナーの存在があったからです。パートナーなしでは、設立趣旨に沿った、「社会体育の発展と国民の健康増進に寄与する」ことは実践できていなかったことでしょう。

5年目を迎えるにあたり、我々は、『豊かなスポーツ文化の創造』を新たな理念に掲げ、今後より一層の活動を行っていきたくと考えています。この理念を具現化するためには、マーケティング活動を通じた関係を超え、真のスポーツ文化の定着を目指して、共に創り上げる喜びを分かち合える、パートナーシップを築き上げていきたいと考えています。様々な情報を共有し、意思の疎通を図ることができる場を作る必要があると思われます。連盟では、「その場」を提供するため、新たに「公式用具委員会」を総務部管轄の委員会として設置するに至りました。

この委員会の設置を受けて、以下の定款が変更となりました。

定款 第9章 「部・委員会 / 10.部・委員会規定」

- | |
|--|
| <p>3. (1)総務部
公式用具委員会
イ. 用具に関する事項
ロ. 公式用具認定に関する事項</p> |
|--|

が、追記されました。

第1回 公式用具委員会 報告書 (2009/9/20)

公式用具委員会の設置を受けて、谷川副会長、坂本専務理事、村松理事、沖山理事、福島オブザーバーの参加による、第1回公式用具委員会を開催した。この報告書は、全ての理事の承認を受けている。

項目1:

「管轄の部の部長による委員長及び委員の推薦、理事会の承認、会長が委嘱。」

総務部部長である、坂本康孝が福島修氏を委員長に、沖山理事を副委員長に推薦し、理事の承認を得、会長の委嘱を受けた。委員については、後日、部長及び委員長、副委員長と検討し決定する。

項目2:

イ. 用具に関する事項

① 用具使用に関する規定

インラインスキーでの用具の使用種類。一般的には、インラインスケート(ブレーキを装着しているものを推奨)、プロテクター(肘、膝、手首<グローブ代用可>の3点)、ヘルメット、石突ゴム(ストック使用時)を主な使用用具と考え、滑走時には必ず身につけなければならない。これらの用具は、原則的に安全テストを行っているメーカーの製品を使用することを推奨する。

② 用具の取り扱いに関する規定

インラインスキーで使用する用具は、滑走使用前に点検しなければならない。

インラインスケート: ボディのプラスチック部の劣化、ひもの断裂、ラチェットのゆるみ、リベット類のゆるみ・破損、フレームの劣化・破損・ゆがみ、フレーム取り付け部のゆるみ、ウィルの消耗度、コア(ハブ)の劣化・破損、アクセル・ベアリング・スペーサーの劣化・破損。

プロテクター: プラスチック部の劣化・破損、スポンジ部分の破損。

ヘルメット: プラスチック部の劣化・破損、スポンジ部分の破損、あごひも部の破損。

石突ゴム: 接地部分の消耗具合。

を、それぞれ確認しなければならない。使用に適さない用具を使用することはできない。劣悪となる用具は、速やかに修理もしくは代替品にしなければならない。

③ 用具の安全調査

各メーカーで行っている安全テストの調査報告を受け、情報の発表を検討する。

リコール対象用具がある場合の情報の発表を検討する。

用具のテスト以外にも、安全面の調査・研究を行い、メーカーと情報を共有する。

「安全普及活動」を推進する。

ロ. 公式用具認定に関する事項

① 公式用具の種類とメーカーの選出及び決定

INSA の公式行事で使用を認める(推奨する)用具の種類を選出し決定する。

INSA の公式行事で使用を認める(推奨する)用具メーカーを選出し決定する。

② 公式用具の使用許可範囲の決定

使用者の範囲及び使用状況の確認作業を推進する。

公式行事の選定と参加者への告知を行う。段階を追って進めることが望ましい。

③ 公式用具メーカーとの打ち合わせ

メーカー担当者の参画(委員委嘱)を検討する。参画しない場合は、メーカーごとに情報交換を行う。

公式用具メーカーと「オフィシャルサプライヤー」契約をし、連盟のメリット、デメリットとメーカーのメリット、デメリットを検討、討議し折衝を行う。

具体的な検討、討議内容として

オフィシャルサプライヤーとしての連盟へのサポート

- 行事、活動など運営関係での商品の提供及び貸与。
- その他、様々な援助。

オフィシャルサプライヤーのメリット、露出、宣伝、販売促進内容

- 大会会場、講習会場などで、社名や広告等の掲出。
- 大会会場、講習会場などで、PRブース展開や、自社アトラクションの展開が可能。
- 大会会場、講習会場などで、直接販売が可能。
- 大会会場、講習会場などで、バナー広告を掲出。
- 連盟のプロパティを利用した販売促進、広報・広告活動が可能。
- 公式サイトでの企業情報、店舗情報、特典クーポンなどが掲載可能。

を遂行事項とし確認した。

項目3:

今期開催される「2010INSA デモンストレーター選考会」のレギュレーション、【**スケートの長さ(ウィールを装着した状態でブレーキを除く)460mm以内のものを使用する**】を参加資格条件として決定。

連盟として安全を確保するための操作性適合サイズを460mmと判断した。連盟として、今後も技術研究を進めていく中で適正な用具選びを研究し推奨していく。また、連盟認定のデモンストレーターは、これらの推奨スケートサイズを公式行事で使用し、推奨活動を啓蒙していくことを願う場合がある。